

用語解説

用語	解 説
育成単層林	植栽の有無に関わらず、育成のため人為を積極的に加えていく森林で、林木の一定のまとまりを一度に全部伐採し、人為により単一の樹冠層で構成されている森林。
育成単層林施業	<u>育成単層林</u> を成立させ、維持するための森林に対する行為のこと。
育成複層林	植栽の有無に関わらず、育成のため人為を積極的に加えていく森林で、 <u>択伐</u> 等により部分的に伐採し、人為により複数の樹冠層で構成されている森林。
育成複層林施業	<u>育成複層林</u> を成立させ、維持するための森林に対する行為のこと。
枝打	一般的には無節の良質材を育成するため下方の枝を切り落とすことをいう。近年は、 <u>複層林</u> における下木や、裸地化した土壌表面での植物の生育が可能となるよう陽光を与えるなど、公益的機能を確保する観点からも行われる。
皆伐	<u>主伐</u> の一種で、一定範囲の樹木を一斉に全部又は大部分を伐採すること。
下層植生	森林において上木に対する下木（低木）、及び草本類からなる植物集団のこと。
下層木	<u>樹冠</u> が2段以上の層状構造をなしている森林で、上層の木に対して下層の木。
間伐	森林の混み具合に応じて、目的とする樹種の個体密度を調整する作業。一般に、 <u>除伐後</u> 、 <u>主伐</u> までの間に育成目的に応じて間断的に行われる。
寒風害	土壌の凍結により給水困難な状態となり、また寒風のため枝葉から水分が失われて、脱水による乾燥枯死をもたらす被害。
機械作業システム	伐出作業や育成作業における各工程の機械による作業仕組（機械の組合せ）をさす。伐出作業においては、集材距離、傾斜の度合、伐採作業現場の大きさ、集中・分散の度合によって変わる。
郷土樹種	天然にその地域に自生する樹種及び歴史的に長期間にわたり植栽されてきた樹種。
群状択伐作業	<u>単木択伐</u> の非効率性を補うとともに、 <u>皆伐</u> による裸地化の弊害を避けるため、森林内の一部をパッチ状に小区画伐採し、その跡地は植栽若しくは <u>萌芽</u> 又は天然下種による更新を期待して行われる施業体系（作業種）の1つ。
公益的機能	一般的に、森林の <u>多面的機能</u> のうち、木材等の生産機能を除いた機能をさす。
混交林	性質の異なった2種類以上の樹種（針葉樹と広葉樹など）が混じって生育する森林。単純林の対語。
再造林	<u>人工林</u> を伐採した跡地に <u>人工造林</u> を行うこと。
里山	集落や農地の周辺にあって、 <u>薪炭材</u> や肥料となる落葉など、生活に密着した資材を継続的に供給してきた森林。

用語解説

用語	解説
地 拵	植栽や <u>天然更新</u> の準備のため、雑草や灌木の刈払いや伐採した樹木の枝等の整理を行う作業
収量比数	ある平均樹高の時、その林分がもてる最大の幹材積に対する現実林分の材積の比率。
樹 冠	樹木の葉と枝の集まりをいう。
主伐	利用期に達した樹木を伐採し収穫すること。 <u>間伐</u> と異なり、伐採後、次の世代の樹木の育成、すなわち更新を伴う伐採である。
上層木	<u>樹冠</u> が2段以上の層状をなしている森林で、下層の木に対して上層の木。
植 生	ある区域に集まって生育している植物の全体をいう。自然植生、現存植生などと使う。
除伐	育成の対象となる樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業。一般に、下刈を終了してから、植栽木の枝葉が茂り、互いに接し合う状態になるまでの間に数回行われる。
人 工 造 林	苗木の植栽、種子のまき付け、挿し木等の人為的な方法により森林を造成すること。
人 工 林	人為を加えて <u>人工造林</u> や <u>天然更新</u> で成立した森林。
森林生産力	森林の主に木材を生産する能力（ポテンシャル）。
森林施業	目的とする森林を造成、維持するための <u>造林</u> 、 <u>保育</u> 、 <u>間伐</u> 、伐採等の一連の森林に対する行為。
森林施業計画	市町村森林整備計画等に基づいて森林所有者等がその所有林等について5年を1期とした長期計画を作成し、市町村長等の認定を受ける制度。
森林保健施設	森林の保健機能の増進に関する特別措置法第2条第2項第2号の規定により森林の有する保健機能を高度に発揮させるため公衆の利用に供する施設。休養施設、教養文化施設、スポーツ又はレクリエーション施設、宿泊施設等がある。
スイングヤーダー	バックホーにウインチが付いた木材搬出用機械。
スキッター	木材を引きずって運ぶための集材機械の総称。
造林	林地に森林を仕立てること。造林の方法には <u>人工造林</u> と <u>天然更新</u> がある。
帯状択伐作業	<u>単木択伐</u> の非効率性を補うとともに、 <u>皆伐</u> による裸地化の弊害を避けるため、立木を樹高幅ほどで帯状に伐採し、その跡地は植栽若しくは萌芽又は <u>天然下種</u> による更新を期待して行われる施業体系（作業種）の1つ。
択伐	<u>主伐</u> の一種で、森林内の成熟木を数年～十数年ごとに計画的に伐採（抜き切り）すること。伐採により森林の状態が大きく変化せず、持続的な森林経営ができる。
多面的機能	森林の有する国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、公衆の保健、地球温暖化の防止、林産物の供給等の多面にわたる機能。

用語解説

用語	解説
タワーヤーダー	元柱になる鉄柱と集材装置を装備した移動式の集材機。
短幹材	伐採した樹木を利用する長さに玉切りした材。
単木択伐	立木の伐採が、森林及びその周辺における自然環境に大きな変化を招くおそれが少ない程度の <u>択伐</u> 。
単木択伐作業	<u>択伐</u> 作業の1種で、更新のために伐区から一定量を単木的に抜き切りする方法。
治山施設	<u>保安林</u> の指定の目的を達成するために必要として実施された保安施設事業（森林法）及び地すべりを防止するために地すべり防止工事（地すべり等防止法）により設置された施設。
中径材	直径がおおむね15～30cmの木材のこと。
長伐期	<u>標準伐期齢</u> のおおむね2倍に相当する林齢以上のこと。
長伐期施業	大径材生産等を目的として、 <u>標準伐期齢</u> のおおむね2倍に相当する林齢以上の林齢において <u>主伐</u> を行う森林施業。
天然下種更新	林地内に残した木（ <u>母樹</u> ）またはその側方の木より自然に落ちた種から発芽した稚樹を後継樹として森林を仕立てる方法
天然更新	主として天然の力によって次の世代の樹木を発生させることをいう。種子が自然に落下し、発芽して成長する場合（ <u>天然下種更新</u> ）と、木の根株から発芽（ <u>萌芽</u> ）して成長する場合などがある。
天然林	天然の状態であって、 <u>造林</u> ・ <u>保育</u> についてはほとんど人の手が加わっていない森林。
特定広葉樹	地域独特の景観や多様な生物の生息・生育環境の維持・創出を図るために必要な広葉樹として市町村森林整備計画で定めた樹種。
特用林産物	森林原野の産物のうち、建築やパルプ等に使われる一般用材を除いた品目。きのこ類、山菜類、果樹類、木炭類等
伐期	林木の伐採・収穫の時期。
伐区	もともと伐採（ <u>主伐</u> ）が行われる区域をさすが、 <u>造林</u> から育林、伐採までの作業が一貫して同一に行われる区域にも用いられる。
標準伐期齢	主要樹種について平均成長量が最大となる年齢を基準とし、森林の有する <u>公益的機能</u> 、平均伐採齢等を勘案し、地域森林計画で示した指針をもとに、森林計画制度上の誘導指標として市町村森林整備計画で定めた年齢。 <u>保安林</u> の指定施業要件の基準に用いられている。
フェラーバンチャー	立木の伐倒とその後の作業が便利なように一定の場所に集積する2つの工程を行う機械。
フォワーダ	玉切りした <u>短幹材</u> を荷台に積んで運ぶ集材専用の車両。荷台に積載用のクレーンを装備している。

用語解説

用語	解説
複層林	林冠構成が複数状態をしている森林を総称して、 <u>複層林</u> という。二層のものを二段林、三層のものを三段林という。 <u>択伐林</u> は <u>複層林</u> となる。
複層林施業	森林を構成する林木の一部を伐採し、苗木の植栽等を行うことにより、複数の <u>林冠</u> を構成する森林を造成する施業。
不在村森林所有者	自分の森林の所在する市町村区の区域に居住していない森林所有者。
プロセッサ	全木（枝付き）の枝払い、玉切り、集積の一連の工程を行う機械。
保安林	水源のかん養、土砂の流出等の防備、公衆の保健、名所又は旧跡の風致の保存等のため、森林法第25条に基づいて農林水産大臣又は知事が指定した森林。森林の施業に一定の制限が課せられる。
保育	植栽を終了してから伐採するまでの間に、樹木の生育を促すために行う下刈り、 <u>除伐</u> 等の作業の総称。
保育間伐	育成の対象としている樹木（目的木）間の競合を緩和し、残存木に十分な陽光を与えるため目的木を <u>伐除</u> する <u>間伐</u> のうち、伐採された木が利用径級等に達しないため林地にそのまま林木を放置する <u>間伐</u> をいう。これに対し素材を生産するものを「利用間伐」という。
萌芽	立木を伐採した後に切り株から発生する芽を <u>萌芽</u> という。
萌芽更新	立木を伐採した後に切り株から発生した <u>萌芽</u> を成長させて林を更新する方法。こなら、くぬぎなどぼう芽力の強い広葉樹に対して行われる。
保護樹帯	<u>造林</u> をする際に前生樹の一部を帯状に残して風をさえぎり、または主風の方向に対して樹木を帯状に造成することによって気象害などの被害の軽減を目的に残された又は造成された樹木の集団をいう。
母樹	優良な形質をもった種子や穂木、茎や根を採取する樹をいう。 <u>母樹</u> の集団を <u>母樹林</u> という。
猛禽類	飛翔力が強く、曲がった鋭いくちばしをもち、他の鳥類や哺乳類・爬虫類などを捕食する大型の鳥の総称。
有用広葉樹	一般に、住宅部材、家具用材等として利用される材が採れる樹種を指している。家具建築用材などに利用されるブナ、カンバ類、ナラ類、ケヤキ、キリ、ハリギリなどがある。
林冠	<u>樹冠</u> が隣接する樹木の <u>樹冠</u> と接して隙間なく連続している状態。
林相	森林を構成する樹種、林冠の粗密度、林齢、林木の生長状態などによって示される森林の全体像をいう。
林齢	森林の年齢。森林が成立（更新又は植栽）した年を1年とし、それから経過した森林の年齢をさす。
列状間伐	林地の斜面上下に沿って列状に <u>間伐</u> する間伐方法。